

時に配するときは夜半たり、世俗只丙午の年に火災ありといふのみ、壬子の年に水厄ありといはざるときは、丙午の説も信するに足らず、縦そのよしありといふとも、偶然たるのみ、

有卦無卦

〔孝經樓漫筆〕有暇 無暇

北山云、閑田耕筆に、うけむけといふ事は、大般若經の貧窮無暇入有暇といふ事なりと云々、餘に物えらぬなり、うけは有氣とかくべし、むけは無氣とかく事なり、その義つまびらかに左に表す、

	胎	養	生長	沐浴	冠帶	臨官	帝旺	衰	病	死	墓	絕
木性	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申
火性	子	丑	寅	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥
土性	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅	卯	辰	巳
金性	卯	辰	巳	午	未	申	酉	戌	亥	子	丑	寅

胎養長、沐浴臨、帝の七を有氣とし、衰病、死墓絶の五を無氣とす、木性の人、は酉年酉月、八月なり、酉日酉時より、七年有氣入、辰年辰月、三月なり、辰日辰時より、酉年七月申の日まで無氣なり、

〔五行大義〕第四論、相生就此分爲三段、略○中 二者論生死所、

五行體別、生死之處不同、遍有十二月十二辰而出沒、木受氣於申、胎於酉、養於戌、生於亥、沐浴於子、冠帶於丑、臨官於寅、王於卯、衰於辰、病於巳、死於午、葬於未、火受氣於亥、胎於子、養於丑、生於寅、沐浴於卯、冠帶於辰、臨官於巳、王於午、衰於未、病於申、死於酉、葬於戌、金受氣於寅、胎於卯、養於辰、生於巳、沐浴於午、冠帶於未、臨官於申、王於酉、衰於戌、病於亥、死於子、葬於丑、水受氣於巳、胎於午、養於未、生於申、沐浴於酉、冠帶於戌、臨官於亥、王於子、衰於丑、病於寅、死於卯、葬於辰、土受氣於亥、胎於子、養於丑、寄行於寅、生於卯、沐浴於辰、冠帶於巳、臨官於午、王於未、衰病於申、死於酉、葬於戌、